

学校法人聖靈学園
聖靈女子短期大学
機関別評価結果

平成23年3月24日
財団法人短期大学基準協会

聖霊女子短期大学の概要

設置者	学校法人 聖霊学園
理事長名	平垣 ヨシ子
学長名	平垣 ヨシ子
ALO	塚田 三香子
開設年月日	昭和29年4月1日
所在地	秋田県秋田市寺内高野10-33

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
生活文化科	生活文化専攻	90
生活文化科	生活こども専攻	50
生活文化科	健康栄養専攻	60
	合計	200

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	健康栄養専攻	15
	合計	15

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

聖霊女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 23 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 21 年 6 月 10 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該学校法人は、神の人類愛に根ざした教育によって子どもたちを育てることを目的に、明治 41 年に幼稚園を開設したことに始まる。当該短期大学は、建学の精神に基づき、昭和 29 年に開設された。

建学の精神は、キリストによって示された神の愛であり、教育理念はこの建学の精神に基づき極めて明確である。また、全学的な教育重点目標と、そこから導き出される教育活動重点事項が示され、更に各科・専攻の目標が段階的・具体的に示されている。

教育の内容について、教育課程は学科・専攻の専門性に対応した免許・資格取得が可能であり、学生のニーズにこたえるものとなっている。教員は教育重点目標と教育活動重点事項の諸項目に関する検討と、改善案に基づいた取り組みを行っている。また、毎年教職員研修会を行うなどファカルティ・ディベロップメント（FD）活動にも熱心である。

教育の実施体制について、教員組織は短期大学設置基準を充足しており、採用及び昇任については選考基準として「教員資格審査規程」が整備され、適切に行われている。

教育目標の達成度と教育の効果については、履修全学生から授業評価を行い、結果について担当教員が授業改善案を報告し、改善につなげる努力を行っている。

学生支援については、クラスアドバイザーが学習支援、生活支援をきめ細かく行っている。就職支援においてもクラスアドバイザーがきめ細かな指導を行い、就職部会及び就職指導室との連携により、高い就職率となっている。

研究では、研究費や研究成果の発表機会、研究室や研究設備等、研究活動に必要な環境も整備されている。また、教育にかかわる研究については学生の表現能力を高めるための共同研究で成果がみられる。

社会的活動については、キリスト教系の大学であることから、従来より社会的活動、特に地域へのボランティア活動に積極的に参画し、学生教育にも生かされている。

管理運営について、理事会及び評議員会は寄附行為に基づき適切に運営されている。財務状況については、余裕資金はあるものの、過去3ヶ年、短期大学部門の収支バランスに課題がある。しかし、定員充足率が上昇しており、中期事業計画も策定しているなど改善を図っている。

自己点検・評価活動のための規程が定められ、全教職員がかかわる実施体制が整えられているまた、全教職員による年間の実施計画と、その報告に基づいて自己点検・評価活動が行われている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 学生を対象にした教育重点目標と、そこから導き出される教員側の教育活動重点事項の取り組みや、授業改善と事務・管理の充実に資する教職員研修会などのFD活動は、優れた試みである。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 入学定員50人の学生に対して、30台のグランドピアノを設置した、ピアノ練習室が設けられている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学習支援や生活支援については、クラスアドバイザー及び学生部担当教員が行い、就職支援については、クラスアドバイザー、就職部会及び就職指導室の三者が連携し高い就職率につながっている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- クリスマスコンサートなどキリスト教系の特徴を生かしたイベントを実施し、地

域住民との交流を図っている。また、学生が東京・山谷でボランティアとして支援活動に参加している。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 全教職員が教育活動、職務の点検・評価を行い、所定の様式によって報告をすることにより、全教職員が自己点検・評価活動にかかわる仕組みができています。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 「6つの科目群」の科目内容を、学生にとってより分かりやすく体系的に表示することが求められる。
- シラバスの「評価基準」の記述方法の統一について改善が求められる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 入試要項に入学者選抜の方針を定め、示す必要がある。また、入学者選抜実施要項の納付金の欄において、具体的な説明が不足している部分は改善が望まれる。
- 保健室で看護師がカウンセリングも行っているが、秘密保持やプライバシー保護のために、カウンセリング用の仕切られた部屋を設置することが望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

- 余裕資金はあるものの、過去3ヶ年、短期大学部門の収支バランスに課題があるので、財務体質の改善に努められたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神は、キリストによって示された神の愛の精神であり、教育理念はこの建学の精神に基づき、明確である。また、学生を対象にした教育重点目標と、そこから導き出される教員側の教育活動重点事項が示され、更に各科・専攻の目標が段階的・具体的に示されている。教育重点目標と教育活動重点事項については、学生に周知するとともに、更に諸項目を具体的に示している。これらは毎年検討が行われ、点検されている。そして、その共通理解については学生便覧等への掲載、オリエンテーションや履修ガイダンスなど様々な方法と機会を得て、周知徹底を図っている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

教育課程は必修・選択科目という分け方で構成され、まとめられている。資格取得に重きを置いた教育を目指し、学生のニーズにこたえるものとなっている。しかし、短期大学案内には「6つの科目群」とあるが、その科目内容が明示されていないため、学生にとってより分かりやすい体系的な整備が望まれる。シラバスが作成され、全科目が共通項目により記述されているが、「評価基準」の記述内容が統一されていないので、改善が望まれる。教育重点目標と教育活動重点事項の諸項目に関する取り組みや、授業改善と事務・管理の充実を目的とした教職員研修会を行うなど、FD活動に積極的に取り組んでいる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員の年齢構成は、アンバランスが目立つが、教員組織は短期大学設置基準を充足しており、採用及び昇任については選考基準として「教員資格審査規程」が整備され、適切に行われている。

教育環境は整備され、特にピアノ練習室は充実している。情報機器については随時、新しい機器に替えていくことが求められる。

図書館については、広さ、座席数、参考図書及び関連図書等が整備されている。学内のパソコンから検索できるシステムはあるが、学生の利便性を考慮し、図書館内にある検索用パソコンを増設することが望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

授業の成績評価については、評価点の高い科目が多い。評価基準を整備し、厳正な成績評価に努めることが望まれる。履修全学生からの授業評価は、その結果について担当教員は授業改善案を報告し、改善につなげる努力を行っていることもあり、満足度は高い。免許取得と結び付いた学科・専攻については、特に専門就職率が高い。また、就職先への卒業生のアンケート調査や、卒業生へのアンケート調査を行い、卒業後評価に努めている。退学や休学については、クラスアドバイザーによるきめ細かい指導が行われている。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学者選抜方法は、三つの区分で行われている。しかし、入学者選抜実施要綱には入学者選抜の方針が示されていないので、今後はこれを定めて示す必要がある。また、納付金の欄において、具体的な説明が不足している部分は改善が望まれる。

入学者に対するオリエンテーションは、大学生活に早く慣れるように先輩からのアドバイスなど配慮された中で行われている。学習や科目選択のためのガイダンスはオリエンテーション時のほか、1年次前期終了時、後期終了時、2年次前期開始時、前期終了時に行われるアSEMBリーにおいても説明している。また、クラスアドバイザーと学生部担当教員が学習支援や、生活支援にきめ細かく当たっている。就職支援においてもクラスアドバイザーのきめ細かな指導と就職部会及び就職指導室の連携により、高い就職率となっている。進学についても数は少ないながらも、進学部による支援が行われ、四年制大学及び専攻科に進学者を出している。

評価領域Ⅵ 研究

教員の研究活動は論文発表、学会発表を中心に一定の成果をあげている。しかし、研究業績のあがっていない教員もいる。研究室は一人1室が整備され、研究費の規程もあるが、教員の研究活動を活性化するためには、更に研究に取り組める条件整備が求められる。また、科学研究費補助金などの外部研究資金の獲得状況等については短期大学として把握することが望まれる。

教育にかかわる研究については、学科のカリキュラム内容を反映した学生の表現能力を高めるための共同研究で、成果がみられる。全学的な取り組みによる授業研究では、学内公開授業を実施し、研修を行っている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

当該短期大学は社会的活動に積極的である。社会的活動は、「一人ひとりが神から与えられた、かけがえのない存在であり、自分をも人をも大切にする」という教育理念に基づいて、教育・研究活動の重要な柱として位置付けている。公開講座やセミナー等を行い、短期大学教育を地域へ開放している。また、クリスマス・コミュニティパーティーなどを通して地域社会との交流を行うなど、ボランティア活動への積極的な参加に努めており、また、当該短期大学の社会的貢献として学生教育にも生かされている。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事会及び評議員会は、寄附行為に基づき適切に運営している。

教授会は短期大学の教育研究上の審議機関として、学長のリーダーシップの下で、適切に運営されている。五つの部会と六つの委員会が設置され、規程に基づいて適切に運営されている。

事務組織は適当な規模で整備されており、教職員の就業に関する規程も整備されている。更に学校法人と教職員、教員と事務職員との協力体制も築いており、人事管理が適切に行われている。

評価領域Ⅸ 財務

学校法人及び短期大学の中期事業計画を策定している。毎年度、各部門から提出される事業計画に基づき予算を作成し、各部門に伝達し適切に執行されている。また、日常の出納業務は円滑に実施され、担当責任者を経て理事長に報告されている。

当該短期大学の財務の状況は過去3ヶ年支出超過であるが、その、現状を把握し、中期事業計画を策定し改善を図っている。また、学校法人及び短期大学を永続させるための余裕資金を引当資産として十分に保有している。

短期大学に必要な施設設備が整備されており、固定資産管理規程等により、施設設備の維持管理が適切に行われている。また、省エネルギー、省資源対策、その他地球環境保全にも配慮している。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価活動のための規程が定められている。自己点検・評価活動には全教職員がかかわり、その中心に「評価委員会」が設置されており、自己点検・評価活動

の実施体制が整えられている。自己点検・評価活動は、全教職員による年間の自己点検・評価の実施計画と、その実施報告に基づいて行われている。このような全教職員がかかわる活動により、教育活動改善の意識化、教育活動の充実と活性化に努めている。相互評価について規程を整備している。また、FD 活動等への熱心な取り組みや、相互評価の準備が行われている。